

# VOICE

# 5



岡山大学

## 特集 「望ましい授業とは」







## 目次

## 議論の広場

## 特集：「望ましい授業とは」

|                                                       |    |
|-------------------------------------------------------|----|
| 『望ましい授業とは』の特集に当たって<br>広報専門委員会委員長 神崎 浩                 | 1  |
| 「能動的な学び」あってこそその授業<br>文学部行動科学科教授 長谷川芳典【F D専門委員会委員長】    | 2  |
| 議論こそ授業の真髄である<br>文学部人間学科1年次生 津島健一郎【学生・教員F D検討会】        | 4  |
| 私の望む講義<br>法学部法学科2年次生 藤田曜子【学生・教員F D検討会 新授業WGリーダー】      | 5  |
| 望ましい授業とは<br>経済学部経済学科3年次生 二見雅信                         | 6  |
| 望ましい授業とは<br>経済学部第二部経済学科4年次生 武内麻里子                     | 7  |
| 望ましい授業とは<br>医学部医学科4年次生 露口雅夫                           | 8  |
| 望ましい授業<br>薬学部総合薬学科4年次生 原口未和                           | 9  |
| 「ばんきょう」に求む!!<br>工学部通信ネットワーク工学科2年次生 菅野絢子               | 10 |
| 満足していますか?<br>大学院自然科学研究科(農学系) 博士前期課程2年次生 白神智行          | 11 |
| 文学部における公開授業の取り組み<br>文学部人間学科教授 金関 猛                    | 12 |
| 橋本方式のヒ・ミ・ツー学生の自主的学習力をいかに引き出すか<br>教育学部社会科教育講座助教授 橋本 勝  | 13 |
| 望ましい授業とは<br>経済学部経済学科助教授 吉田千里                          | 14 |
| 望ましい授業の力量<br>工学部生物機能工学科教授 齋藤清機                        | 15 |
| 望ましい授業とは<br>農学部総合農業科学科助教授 西野直樹                        | 16 |
| 望ましい授業とは<br>大学院医歯学総合研究科(歯学部歯学科) 教授 矢谷博文               | 17 |
| よい授業とは—誰がどのように評価するの—<br>大学院自然科学研究科(薬学部総合薬学科) 助教授 竹内靖雄 | 18 |

## 「学生・教員F D検討会の活動紹介」

|                                                                       |    |
|-----------------------------------------------------------------------|----|
| 学生と共に進めるF D—学生・教員F D検討会のねらい—<br>教育学部社会科教育講座助教授 橋本 勝【学生・教員F D検討会教員側代表】 | 19 |
| F D検討会 設立にあたって<br>経済学部経済学科4年次生 吉賀啓記【学生・教員F D検討会前委員長】                  | 21 |
| F D検討会について<br>工学部物質応用化学科2年次生 尾関 優【学生・教員F D検討会委員長】                     | 22 |
| F D検討会の活動を通して<br>教育学部学校教育教員養成課程4年次生 山内 源【学生・教員F D検討会前副委員長】            | 23 |

## お知らせ

## 「外国語教育センターの紹介」

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 経済学部経済学科教授 源河朝典                | 24 |
| 工学部機械工学科教授 鷲尾誠一【外国語教育センター英語系長】 | 25 |

## 「教養特別講義の紹介」

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 文学部人間学科教授 成田常雄【基盤教育部門(Ⅰ)部門長】 | 27 |
|------------------------------|----|

## 「授業改善アンケート概要」

|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| 大学院医歯学総合研究科(医学部医学科) 助教授 大塚愛二【F D専門委員会】 | 28 |
|----------------------------------------|----|

## 「授業評価アンケート」に関するアンケートのまとめ

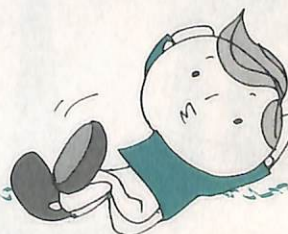
|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 工学部機械工学科3年次生 谷田刷晃【学生・教員F D検討会】 | 30 |
|--------------------------------|----|

## 「議員インターンシップについて」

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 大学院自然科学研究科(理学系) 博士前期課程2年次生 岩本絵美 | 32 |
|---------------------------------|----|

## 「編集後記」

|  |    |
|--|----|
|  | 33 |
|--|----|







文学部行動科学科  
教授  
長谷川 芳典  
【FD専門委員会委員長】

## 「能動的な学び」あってこそその授業

ここでは立場上、授業の質の向上のために全学のFD専門委員会が何をやっているかを書くのが私の役目かと思うが、その前にぜひとも強調しておきたいことがある。それは、大学の単位は、

- 【1】教員が教室等で授業を行う時間
- 【2】学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間（おおむね【1】の2倍の時間）

の両方に基づいて構成されていること、つまり、望ましい授業とは、【1】と【2】をセットにして初めて可能になるという点だ。したがって、どんな名講義であっても、学生の予復習を前提とせずに単位が与えられたとしたら、それは欠陥授業ということになる。

ちなみに、この基準は、「21世紀の大学像と今後の改革方策について 一競争的環境の中で個性が輝く大学一」という、大学審議会（当時）の平成10年10月26日答申の中で強調されており、その基準があればこそ履修科目登録の上限設定が行われ、さらには内外からの信頼に足る大学教育の質が保証されるのである。

岡大では各セメスターの終わりに全授業科目について授業評価アンケートが実施されている。その最初の質問が

●あなたはこの科目の受講において、常に意欲的に取り組む努力をしたと思いますか。

で始められていることを訝しく思った方もあるかもしれないが、これこそ、まさに、授業が【1】と【2】で構成されていることの表れなのである。昨今では、町中でも、料理の質やサービスについて毎回のようアンケートを実施しているレストランがあるが、授業評価アンケートがそれらと本質的に異なるのは、「単なるお客さんではない」ということなのだ。レストランのお客はただ座っているだけ、嫌いなものは食べなくてもよい。金さえ払えば、途中で退出しても文句は言われない。

**単なるお客さんでない**ということは、受講生には毎回授業に出席し積極的に質問をしたり討論に参加したり授業を盛り上げる義務があるということ、また、教員は、毎回厳格に出席をとる義務があり、かつ、小テストを実施したり、授業中に口頭で解答させるなどの方法により、授業を真剣に受けた者（顔を出すだけではダメ）を正当に成績評価に反映させる義務があるということにつながる。学期末の試験のみでなく、小テスト、宿題への対応状況、日常の取り組みや成果を考慮して多元的に成績評価を行うべきであることは、上述の大学審議会答申にもうたわれている。繰り返し言うが、授業への出席は任意ではなく義務である。気が向いた時に訪れるレストランとは違う。

以上2点をふまえるならば、予復習を前提として行われることと、毎回の聴講の努力が的確に評価されることは、望ましい授業の必要条件となる。これらが適切に行われず、出席することが報われな





い授業があったなら、自由記述アンケートでどしどし指摘してもらいたい。もっとも、今や、大学を卒業したかどうかではなく、大学で何を学んだのかが具体的に問われる時代になっている。いわゆる「楽勝科目」な授業を選ぶことはけっきょく自分自身にとっての無駄となる。学生の評価の目が鋭くなれば、結果的に、欠陥授業は淘汰されていくことになるだろう。

望ましい授業にはさらに重要な必要条件がある。それは、その授業が何を目的に行われているのか、それを受けることによって受講生は何が達成されるのかが明確であるという点だ。かつて、大学の授業内容は、「学問の自由」の取り違えにより、各教員の自由裁量により実施されていた時があった。しかし今や、時代の変化や社会の要請に対応した教育が大学に強く求められている。**教員の学術的関心のみから展開するものではない**という点を特に強く指摘しておきたい。

そのためには、教員が個別に担当する個々の授業のみならず、カリキュラム全体についての明確な目標、それを達成するための体系性が求められている。現在の授業評価アンケートはもっぱらティーチング評価（＝担当教員の教え方についての評価）にかかわる内容となっているが、近い将来には、その科目がカリキュラム全体の中で適切に位置づけられているかどうかについての「コース評価」も求められるようになるだろう。またそれが明示されることによってこそ、目標への方向の一致と具体的な達成の度合いのフィードバックが可能となり、学ぶ意欲が生まれてくるのである。

なお、授業の目的やカリキュラムとの連関はシラバスに詳細に明記されなければならない。現在、岡大のシラバスは学部によって、冊子体になっていたり、CD-ROMとして配布されているなどマチマチになっている。冊子型の場合は印刷の都合上A4サイズ1枚に収めることが求められているが、そのスペースでは、上記の内容を詳細に記すことができない。枚数の制限を設けないシラバスを作成するためには、印刷冊子ではなくWeb公開すること、また、それを可能にするために、学生が自由にネットにアクセスできる環境を整備することが必要になっている。

望ましい授業というと「話が分かりやすい授業」、「板書が上手、あるいは教材が適切に活用されている授業」などを思い浮かべる方がおられるのではないかと思う。確かにFDのハンドブックを紐解いてみると、「優秀な科学技術者を大学教員に転用しようとしたところ、優秀な科学技術者が必ずしも優秀な教育者ではない、という厳然とした事実があった。いかに創造的発想が豊かでも、それをコミュニケーションする術がなければ教育はできない、よって科学技術者を教育者にする訓練が必要になったのである……」というような記述がある。

FD専門委員会としても、授業そのものの質的向上をめざして、教員相互の授業参観（授業公開）、全教員を対象とした授業改善のためのアンケート、教育方法に関する研修会、新任・転任教員に対する研修会などさまざまな取り組みを行っているが、ここで私がいちばん言いたいのは、教員側がどのように努力したところで、能動的な学びなくしては「望ましい授業」は決して成立しないということだ。今後もこのことを前提とした上で授業改善の論議が展開されることを期待したい。



# 編集後記



大学教育の開発・改善を意味するFD（ファカルティ・ディベロップメント）という言葉は、いまや大学関係者なら誰もが耳にし口にする、大学改革のキーワードとなっている。わずか数年前には、大学問題に関心のあるごく一部の人が知らない言葉であったことを思うと、隔世の感がある。

今号の『OU-Voice』では、このFDをわかりやすく「望ましい授業とは」と言い換え、教員はもちろん学生サイドからの意見も幅広く集めることにした。幸い、すでに岡山大学では教育開発センターのもとに

「学生・教員FD検討会」という全国でも先進的な組織が設置され、活発な活動を展開している。本誌が岡山大学における今後のFDのあり方をともに考える材料として活用されることを願ってやまない。

## 編集担当

教育開発センター広報専門委員会

神崎 浩 成松鎮雄 船曳信生 松尾龍二 矢野正昭 横尾昌紀

表紙構成監修

橋ヶ谷佳正

表紙イラスト

教育学研究科 美術教育専攻 平成12年度修了 下山章子

学務部教務課教務係





# OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学 OU-Voice 第5号

編集・発行

岡山大学教育開発センター広報専門委員会

所在地・連絡先

岡山市津島中2-1-1 〒700-8530

電話：086-252-1111(代表) Fax：086-251-8440

E-mail：daf8423@adm.okayama-u.ac.jp